アイヌ民族文化研究センターだより NO.15 2001年9月28日発行

【フィールドからデスクから】

現代の「アイヌ書誌」をめざして

「アイヌ書誌」という文献目録があります。『工芸』という雑誌のアイヌ文化特輯号（第106・107号）に載ったもので、編者は式場隆三郎氏、1942（昭和17）年3月の発行ですから、もう60年も昔のものです。「書誌」とは、この場合、あるテーマに関する書物や文献の目録をいうので、「アイヌ書誌」は「アイヌ関係文献目録」の意ということになります。

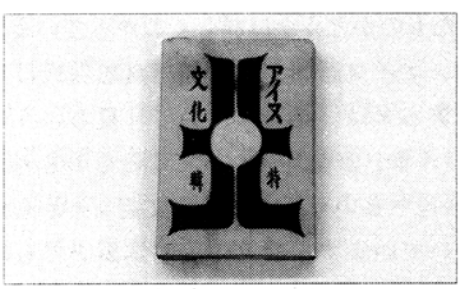


写真1 『工芸』アイヌ文化特輯号

今日から見て文献の欠落を指摘することはできますし、差別的な記述も散見されますが、それを割り引いてなお、この書誌は、自分の仕事において目標と意識している文献目録です。その理由の一つは、この当時で約1,500冊もの図書を取り上げ、さらに目次をも詳しく調べて文献を拾い、口絵写真や挿絵についても紹介しているという、情報量の多さにあります。

いま一つは、取り上げた文献のほとんどに、おおまかな内容や参考となる事柄の説明を付けているという、この目録から得られる情報の質にあります。例えば、アイヌ自身による著作を取り上げた項では、知里幸恵『アイヌ神謡集』（郷土研究社、1923年）など当時でも比較的著名な作品のほか、知里真志保氏（1909～1961年）の著作も逐一紹介しています。さらには、戦後に金田一京助氏らにより刊行された『アイヌ叙事詩　ユーカラ集』（三省堂、全9冊、1959～1975年）の下地になった、登別市の金成マツ氏によるアイヌ口承文芸の筆録ノートについても取り上げており、このノートの点数や状態をよく伝えています。

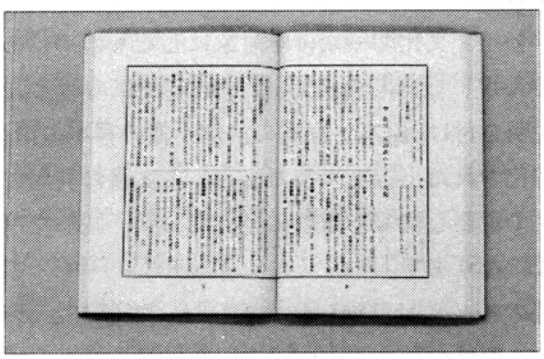


写真2 「アイヌ書誌」本文の様子

こうした記述の底にあるのは、できるだけ原本を入手して調べそして書くという編集姿勢だと思います。実際、こうして個々の文献について著者のプロフィールや内容上の特徴を記す一方で、実物を見ることができなかった図書については、書名、著者名などを記しつつも「実物はみたことがない」と明記して、この目録で提供できる情報の範囲を明確にしています。

＊　＊　＊

自ら何かを調べようとするとき、先ずその分野の文献や資料の目録に目を通すことが、作業の第一歩になります。この意味で、しっかりした目録の存在は、その分野の学習・調査研究の基盤として大きな意味を持つと思います。

さてアイヌ文化に関する目録はというと、個別の分野では研究史の総括に基づく優れた目録を散見することができますが、包括的なものとなると、残念ながら、「アイヌ書誌」以後のまとまった目録はそう多くはないと思います。

そうした中でも、今後の仕事で目指すべきものになると思うものがいくつかあります。『日本北辺関係旧記目録』（北海道大学図書刊行会、1990年）と『アイヌ文献目録 和文編』（みやま書房、1978年）はその例です。

『日本北辺関係旧記目録』は、北海道大学附属図書館の北方資料室が所蔵する北海道、サハリン（樺太）、千島などに関する旧記（主に明治維新以前に書かれた、いわゆる古文書を指します。）の目録です。アイヌ文化関係だけを対象にしたものではありませんが、収録した3,500件以上の文献のほとんどに説明を付け、原本と写本の区別や他の写本の情報、活字化された出版物の情報など、古文書の利用に不可欠で重要な情報を簡潔に記しており、読むたびに勉強になります。

『アイヌ文献目録　和文編』は、表題のとおり、アイヌ関係の和文文献の総合的な目録を意図して編集されたもので、1975（昭和 50）年までの文献約10,000件を収録しています。その後、現在までに多くの文献が世に出ていますし、この目録の範囲の中でも漏れは少なくありません。それでも、単行本は表題のみでなく目次も調査し、辞典や市町村史の目次や項目も対象とするなど、網羅的な目録であることが目指されており、収録件数でこの目録を超えるものは未だ刊行されていません。今なおアイヌ文化研究における最大の文献目録としての位置にあると思います。

＊　＊　＊

アイヌ文化に関する総合的な文献目録を編み、これを広く提供していくことは、道立のアイヌ文化に関する試験研究機関として当センターが果たすべき役割の一つだと思います。先行の優れた業績を目標に据えて、網羅的で体系的な調査と、着実な整理に基づいた、現代のアイヌ書誌を構築し提供していきたいと考えています。

小川正人（研究課・研究職員）

【問い合わせあれこれ】　(6)

＜質問＞アイヌ語で１月から12月の言い方はありますか？

アイヌ語で1月から12月までを表現したものは、古くは『蝦夷談筆記』（1710年）や『蝦夷方言藻汐草』（1804年）などの記録をはじめ、近年でもいくつかのアイヌ語辞典にも載っています。季節によって変化する植物の様子や猟に関するアイヌ語などで表したものや数字の「1～12」と「月」を意味するアイヌ語を合わせた言い方などがあり、その時代、地域や人、それぞれに表現の異なったアイヌ語の記録が残されています。つまり各月に対応するアイヌ語の表現はありますが、それが広い地域で共通に用いられたものかどうかは詳しくわかっていません。

なお、アイヌ語研究者・知里真志保氏は「古い時代のアイヌは「年」について「夏という年」と「冬という年」が交互にやってくるものと考えていたらしい」※1ということを口承文芸などから例をあげて書いています。最近の民俗誌調査でも、千歳市に住んでいた白沢ナベさん（1905～1993年）も「昔は、１年は夏と冬二つに分けて考えていた。正月は夏の末と冬の始まりの間と考えていた。夏と冬合わせてシネパ sinepa（１年）になる」※2と述べています。このように、現代の暦でいう「1年」は「夏・年」と「冬・年」に二分されるという考え方もありました。

このようなアイヌ文化における１月～12月までの呼び方や暦の考え方については、萩中美枝氏が『北海道百科事典　上巻』（北海道新聞社、1981年）に「アイヌの暦日観」として簡潔にまとめています。

大谷洋一（研究課・研究職員）

※１『地名アイヌ語小辞典』北海道出版企画センター、1956年

※２『平成5年度アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査Ⅷ）』北海道教育委員会、1994年

【共同研究から】

小泉文夫記念資料室のアイヌ音楽資料の調査・整理・公開

平成9年より始まった、文部省科学研究費補助金による「民族音楽アーカイヴズにおけるマルチメディア・データベースに関する研究—音響を主体とするメディア統合をめざして—」が平成12年度で終了しました。これには、柘植元一氏（東京芸術大学）を研究代表者として、安藤政輝氏（東京芸術大学）鈴木孝氏（東京工業高等専門学校）、尾高暁子氏（東京芸術大学小泉文夫記念資料室）、及び甲地利恵（当センター）が、研究分担者として参加しました。

＊　＊　＊

小泉文夫記念資料室には、小泉文夫氏（音楽学者、元東京芸術大学教授、1927～1983年）が集めた世界各地の楽器や、音楽に関する文献や音声資料などが所蔵されています。

この研究の主要な目的は、小泉氏の調査資料のうちオープンリールテープ（計1,662点）からの音声のデータを主体に、関連する画像や文字のデータも検索できるデータベースのシステムを作り、インターネット上で公開できる形に整えていくことでした。

1,662点の中にはアイヌ音楽資料が17点（総録音時間が約7時間）含まれています。資料の総数に比べれば僅かな数ですが、録音内容は広い範囲に渡っており、音質も良好で、当時のアイヌ文化の一端をうかがえる音声資料の一つといえます。このアイヌ音楽資料の内容全般の調査、データベースへの入力などの整理作業を甲地が担当しました。

以下は、そのアイヌ音楽資料の概略です。

17点のうち、小泉氏による独自の録音は13点（約3時間半）でした。これらは1967年4月1～2日に平取町二風谷で、4月3日に網走市と常呂町で行った調査の録音です。ノート等は遺されていませんが、小泉氏の著書『エスキモーの歌』（青土社、1978年）や『空想音楽大学』（同）に所収の文章の一部に、このときの調査について触れたものがあります。

平取町二風谷で録音した内容は、座って歌う歌などが9種、子守歌や叙情歌が5種、杵で搗くときの歌が3種、船こぎの動作をして遊ぶ歌が1種、鳥の踊りの歌が2種、旋律にのせて語る物語が4種、祈りや挨拶などが4種、まじない言葉が4種、輪になって踊るときの歌やアイヌ語沙流方言での数の数え方などです。各曲の前後には内容の解説なども録音されています。

網走市と常呂町ではサハリン（樺太）出身の方々から五弦琴の演奏や各種の歌を録音しています。五弦琴の曲は12種が演奏され、一曲ごとに曲の旋律を口ずさむ時のやり方も録音されています。そのほか子守歌や叙情歌などが10種、歌いながら踊るときの曲が5種、アイヌ語樺太方言での数の数え方なども、それぞれ内容の解説などをまじえて録音されています。

小泉氏による録音以外では、近藤鏡二郎氏（音楽研究者、1913～1975年）による録音資料が1点（約1時間）ありました。これは近藤氏が五弦琴について調査を行った時の録音で、解説を添えて小泉氏に送ったものと分かりました。その他3点は研究用の複製などでした。

＊　＊　＊

上記のアイヌ音楽資料は、関係者の許諾を得たものが同資料室のホームページで公開されています。アドレスは以下のとおりです。

http://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/index.html

甲地利恵（研究課・研究職員）

【著作紹介】

第2回　知里真志保（1909～1961年）

アイヌ語研究の第一人者として知られていますが、アイヌ民族誌についても多くの研究業績を残しています。

ここでは、主要な著書・論文等を収めてまとめた『知里真志保著作集』を中心に紹介します。

『知里真志保著作集』　（全6巻）

第1巻～第4巻と別巻Ⅰ、Ⅱという構成になっています。第1巻～第4巻までは、分野ごとに編集されています。各巻末には、編集部による解題が掲載され、収録されている著書・論文の初出などの解説があります。第4巻の巻末に知里氏の年譜、著作目録、第1巻～第4巻までの総索引があります。

別巻Ⅰ、Ⅱは『分類アイヌ語辞典』として、『植物編・動物編』と『人間編』に分けて編集されています。『植物編』と『人間編』は、知里氏が調査をもとに編集したものです。『動物編』は未完成のままカードの形で残された遺稿です。

平凡社、初版、1973～1976年
全6巻　58,000円（本体）
別巻分類アイヌ語辞典ⅠⅡ　26,000円（本体）

第1巻　説話・神謡編Ⅰ

アイヌ民譚集
アイヌの神謡（一）
アイヌの神謡（二）
樺太アイヌの説話（一）
樺太アイヌの説話（二）
りくんべつの翁（樺太編）
アイヌの民話と唄
解題

第2巻　説話・神謡編Ⅱ

アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究
アイヌの散文説話　―川下の者の昔話―
呪師とカワウソ　―アイヌの創造神コタンカルカムイの起原的考察―
アイヌ民俗研究資料　第二
アイヌの歌謡　第一集
疱瘡神に関する資料
かむい・ゆうかる抄　―アイヌ叙事詩入門―
えぞおばけ列伝
説話掌篇集
解題

第3巻　生活誌・民族学編

ユーカラの人々とその生活　―北海道の先史時代人の生活に関する文化史的考察―
アイヌの鮭漁　―幌別における調査―
アイヌ語獣名集
アイヌの植物名に就いて
樺太アイヌの生活
小論集
アイヌ語地名解
地名アイヌ語小辞典
アイヌ語法研究　―樺太方言を中心として―
解題

第4巻　アイヌ語研究編

アイヌ語法概説
アイヌ語に於ける母音調和
アイヌ語入門　―とくに地名研究者のために―
小論集
解題
年譜
著作目録
総索引　1．アイヌ語索引　　2．日本語索引

別巻Ⅰ　分類アイヌ語辞典　植物編・動物編

植物編

第Ⅰ部　植物名彙

第Ⅱ部　関係語彙

第Ⅲ部　索引　1）アイヌ語索引　2）学名索引　3）和名索引　4）事項索引

動物編

動物名彙

動物編索引　a）学名索引　b）アイヌ語索引　c）日本語索引

別巻Ⅱ　分類アイヌ語辞典　人間編

第Ⅰ部　人体名彙

第Ⅱ部　人間名彙

第Ⅲ部　索引　a）アイヌ語索引　b）日本語索引

なお、次の著作は単行本でも発売されています。

・**『アイヌ民譚集』**
（岩波書店、初版1981年）660円
『アイヌ民潭集』（郷土研究社、初版1937年）と『えぞおばけ列伝』（ぷやら新書刊行会、初版1961年）をあわせて一冊にして刊行されたものです。

・**『地名アイヌ語小辞典』**
（楡書房、初版1956年／北海道出版企画センター、復刻1984年）971円

・**『アイヌ語入門』**
（楡書房、初版1956年／北海道出版企画センター、復刻1985年）1,214円

この他『著作集』に所収されなかった論文を集めたものとして以下の図書が刊行されています。

・**『和人は舟を食う』**
（北海道出版企画センター、1986年）1,000円

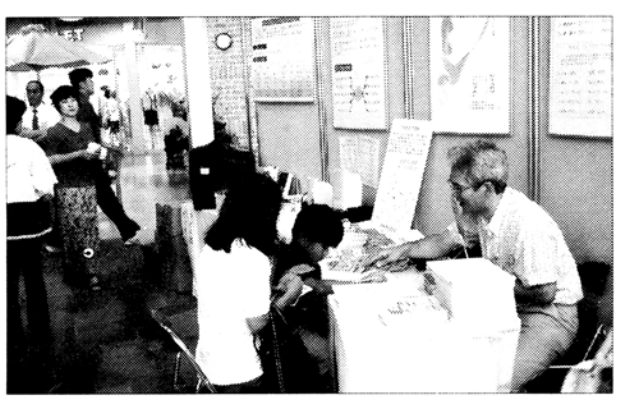
※価格は全て税抜き本体価格です。

●2001道立試験研究機関「おもしろ祭り」参加

道立の試験研究機関が推進している研究内容を広く道民に紹介し、その役割について理解を得るため、毎年道立試験研究機関「おもしろ祭り」が開催されています。

今年は8月7日、小樽市のマイカル小樽で開催され、当センターは初めて参加しました。アイヌ語をテーマに、語順、方言差、短い物語やアイヌ語地名についてのパネル展示と、研究職員による解説を行いました。

また、アイヌ語に関するクイズを作成し、来訪した方々に挑戦していただきました。



2001おもしろ祭りの様子

●ホームページ開設

9月3日にホームページを開設いたしました。アドレスは以下のとおりです。

http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ksambkc/hacrc/hp/index.htm

●アイヌ文化講座のお知らせ

本年度は、松前町において、松前町教育委員会と研究センターの共催でアイヌ文化講座を開催します。なお、参加費は無料です。

講演タイトル：松前と山丹交易　―大陸との経済文化交流における松前藩の役割について―

講師：佐々木史郎氏（国立民族学博物館助教授）

日時：平成13年11月9日（金）

19:00～21:00（18:30　開場）

会場：松前町総合センター（松前郡松前町字神明）

問い合わせ：

アイヌ民族文化研究センター　011-272-8801

松前町教育委員会　01394-2-3060

【平成13年度前半の主な動き】

（4月）

・総務課・唐田満雄課長着任

（5月）

・アイヌ資料調査及び関連資料の収集（ロシア共和国・サンクトペテルブルグ／参加：古原研究課長）

（8月）

・「2001おもしろ祭り」（小樽市／参加）

・アイヌ民族資料の調査（ロシア共和国・サハリン州／参加：古原研究課長）

（9月）

・ホームページ開設

【センター刊行物のお知らせ】

10月に次の刊行物の発行を予定しています。

●『山田秀三文庫　文書資料目録Ⅱ　地図資料』

●アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ　7　芸能』

編集・発行　北海道立アイヌ民族文化研究センター
〒060-0001　札幌市中央区北1条西7丁目　プレスト1・7　5F
Tel. 011-272-8801(代)　Fax. 011-272-8850
開館／月～金　9：00～17：00　休館／土・日・祝

古紙配合率100%、白色度70%の用紙を使用しています。